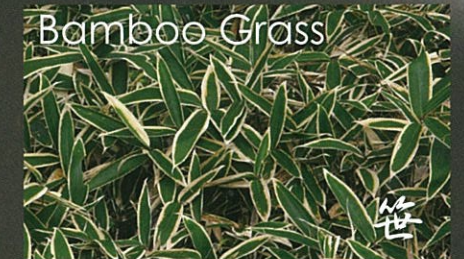


試験項目	測定値	試験方法
引張強さ (kN/m)	縦	JIS L1096 A法 試料幅: 25mm×200mm 引張速度: 100mm/min つかみ間隔: 100mm 試験機: ロードセル式 1kN
	横	
伸び率 (%)	縦	
	横	
引裂強さ (N)	縦	JIS L1096 A-1法 (シングルタング法)
	横	
耐水度 (kPa)	20以上	JIS L1092 A法 静水圧法(低水圧)
坪量 (kPa)	437.4	JIS L1096 A法
厚み (mm)	0.69	JIS L1096 A法
破裂強さ (kPa)	3140	JIS L1096 A法 (ミューレン法)

商品名: RCF® 防根・防竹シート
 原材料: ポリプロピレン
 色 : ブラック
 品 番: RCF420

サイズ(幅×長さ)
 0.5m×10m 0.5m×20m
 1m×10m 1m×20m
 1.5m×10m 1.5m×20m
 2m×10m 2m×20m

全ての植物根に対応したオールラウンド防根シート



RCF® テープ

試験項目	測定値	試験方法
引張強さ (N/cm)	131.2	ASTM D 1000
伸び率 (%)	40	ASTM D 1000
厚さ (mm)	バックング	ASTM D 1000
	粘着層	ASTM D 1000
突刺し強さ (N/cm)	890	ASTM D 1000

商品名: RCF® テープ
 基 盤: ポリエチレン
 粘着層: エラストマー
 色 : ブラック
 品 番: RT-1000
 サイズ: 10cm×10m

※施工上の注意点

- シートを接続する場合は下記の寸法でシート重ね代を設け、専用のテープで接続して下さい。
 ※樹木・ササ用途: 20cm以上/タケ用途1m以上
 ※テープはシート両面共にシワの無い様、貼り付けて下さい。
- 雨天時やシートが濡れている状況では、専用のテープは貼り付きません。
 晴れた日に施工して下さい。
 また、表面にゴミやホコリが付いている場合は、雑巾で取除いて下さい。
- シートが破損した場合は、補修を行い使用して下さい。

※施工等でご不明な点が御座いましたら、お気軽にご連絡下さい。



当社製品は環境を配慮し、紙芯(廃棄物)を使わず巻き加工しております。

ドイツ工業規格DIN4062(屋上緑化防水)の中のルピナスを使用した防根性能試験にて、根の貫通は認められておりません。

RCF®は(株)グリーンフィールドの登録商標です。

RCF® 防根・防竹シート

Based on DuPont™ Xavan®



株式会社 イズカ

〒693-0043 島根県出雲市長浜町337-13
 TEL (0853) 28-2688(代) FAX (0853) 28-2802
 E-mail: info@izuka.co.jp http://www.izuka.co.jp

販売元: G&F GreenField 株式会社グリーンフィールド

北日本営業部: 〒028-3314 岩手県紫波町大巻八竜 64-3
 TEL: 019-671-3310 FAX: 019-671-3308
 東日本営業部: 〒270-1137 千葉県我孫子市岡発戸 919-4
 TEL: 04-7165-9900 FAX: 04-7165-9905
 西日本営業部: 〒673-0041 兵庫県明石市西明石南町 2-3-7
 関西営業所 TEL: 078-939-4130 FAX: 078-939-4131

www.gfield.co.jp sales@gfield.co.jp

株式会社 グリーンフィールド

www.gfield.co.jp

全ての植物根に対応したオールラウンド防根シート

製品特長

- ・全ての植物の根茎に対応します。
- ・化学薬品を一切使用しておりませんので、土壌汚染、樹木への成長阻害の心配はありません。
- ・100%ポリプロピレン素材ですので、加水分解、廃材の廃棄も問題ありません。
- ・高強度で柔軟性があり、耐水性に優れています。又、軽量で施工性にも優れています。
- ・土中の化学薬品、バクテリア、酸、アルカリ、微生物等に影響を受け難く耐久性に優れています。
- ・紫外線劣化防止加工を施しているため、シート露出部も耐久性があります。
- ・揮発成分、臭い、ベタツキはありません。

RCF® 防根・防竹シートの施工は熟練工も特別な機具も不要で、カッターやハサミで簡単に加工出来ます。シートを延長する場合、シート同士を重ねて専用のテープで両面貼り付け接続しますが、重ね長さは植物により変わります。竹の場合は1m以上、樹木及び笹は20cm以上シートを重ね合わせ、専用のテープでシート両面に張り付け(接続)して下さい。

RCF® 防根・防竹シートは主に下記の用途を推奨します。

- 樹木の根自体の保護 ● 舗装道路やインターロッキングの持ち上がり防止 ● 上下水道管、浄化槽、地下貯留システムの保護
- 屋上緑化 ● 護岸植栽 ● ガス管、電線共同溝、電気ケーブルなどの保護 ● 地下茎、根茎の侵出防止



竹の根による被害例



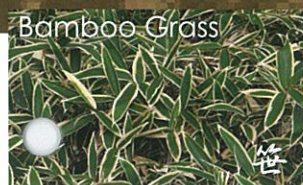
竹の地下茎の侵食



樹木根による被害例



樹木の根による路盤の持ち上がり



笹の根による被害例



笹の侵食



1m~1.5m 幅
(垂直施工のみ)

竹の根は成長が早く貫通力があるため、障害物があっても限りなく地下茎が成長します。特にモウソウ竹の場合、地下茎の深さは通常GLから10cm~50cmの深さで成長しますが、環境によっては80cmにまで及びます。この地下茎(ランナー)の侵入を防ぐことが重要なポイントです。

主な用途は竹林との境界、竹の植栽です。

RCF®を竹へ使用する場合の注意点

- ・上部を5cm程度地表に露出して下さい。
- ・シートを延長する場合は1m以上重ねを設け、専用のテープで両面接続して下さい。

メンテナンス

根が成長する春から秋の期間は、地下茎が地表から露出し乗り越えた場合根を切断して下さい。

施工現場の検証



シートを剥がした根の状況

シートを剥がしモウソウ竹地下茎の検証を行った。地下茎はシートに沿って成長しておりこの現場の最大深さは80cmであった。貫通やくぐり抜けは無く完全に抑制していた。

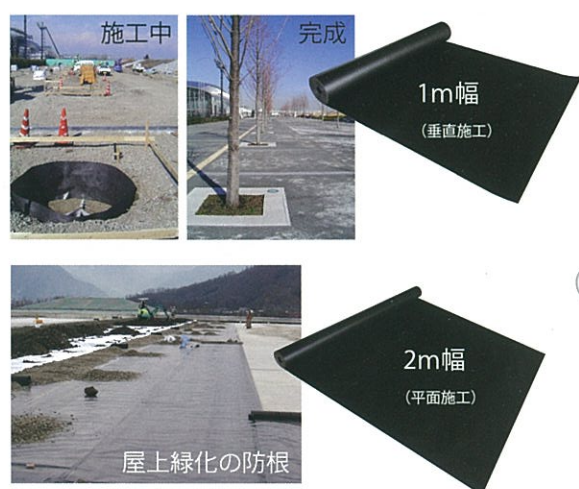


施工現場の検証



シートを剥がした根の状況

シートを剥がし樹木根茎の検証を行った。地下茎はシートに沿って成長しており問題なく抑制していた。



1m幅
(垂直施工)

2m幅
(平面施工)



屋上緑化の防根

樹木の根は、特に良質な土壌で多湿の場合、障害物があっても際限なく成長します。舗装部分の下土はその縁ほど肥えていないため、樹木の根は成長が加速され、通常より太くなり舗装部分に亀裂をあたえたり、持ち上げたりするのです。又、樹木の根がパイプやケーブルに遭遇した場合、下水管や水道管の湿度の高さに影響され、パイプの中に侵入したり、持ち上げたりし、重大な被害を起こします。新設時に予め施工しておくことをお奨めします。

シートを延長する場合は20cm以上重ねを設け、専用のテープで両面接続します。



50cm
~1m 幅

笹の根は竹と同じく成長が早いので、障害物があっても限りなく地下茎が成長します。地下茎の深さは通常GLから10cm~30cmの深さで成長します。この地下茎(ランナー)の侵入を防ぐことが重要なポイントです。

主な用途は笹の植栽です。

RCF®を笹へ使用する場合の注意点

- ・上部を5cm程度地表に露出して下さい。
- ・シートを延長する場合は20cm以上重ねを設け、専用のテープで両面接続して下さい。

メンテナンス

根が成長する春から秋の期間は、地下茎が地表から露出し乗り越えた場合根を切断して下さい。笹の種類によっては地下茎の深さが50~60cmに達する場合がありますのでご不明な場合はお問い合わせ下さい。

施工現場の検証



施工直後



施工3年後

施工から3年経過した現場で、笹はエリア外へ浸食しておらず防根シートによって完全に抑制されていた。

参考施工手順

※下記の施工は防竹用途(垂直施工)で、幅1mを使用しております。



植栽するエリアを決めたらユンボで掘削する。



オペレーター1人と補助1人で行うと効率が良い。要所の深さをチェックする。



シート同士のジョイントは1m以上重ね、専用のテープできれいに両面とも接続する。(※樹木の場合はシート重ねは20cmが良い)



シートを広げる場合、シートがたるまないようある程度の間隔で支柱を立てる。



ある程度シートを広げ設置が完了したら土を埋め戻す。この場合、勢い良く埋め戻すとシートがよれてしまうので静かに土を踏み固めながら土を戻す。



埋め戻した場所はユンボで踏み固める、もしくはプレート転圧で締め固める。



最後に植栽して完了。

その他施工例



地下貯留層の防根



護岸整備の防根